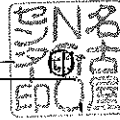


平成17年度最終報告書

コード番号：05-A-077

被助成者 特定非営利活動法人名古屋NGOセンター



申請事業の名称： ～平和な社会を実現するために、地域のNGOが未来のNGOを育てる場～
「次世代のNGOを育てるコミュニティ・カレッジ」の創設

- 添付資料：① 2005年度本コミュニティ・カレッジ報告書 *写真および新聞記事が含まれています。
② 2006年度本コミュニティ・カレッジ要項 *卒業生の実績が記載されています。
③ 「NGO福岡ネットワーク」による研修要項 *他地域のモデル事業となっています。

2002年度、2003年度と、中部地域のNGOとともに次世代のNGOスタッフの人材育成を行い、その半数以上がNGOスタッフとして活躍し、平和な社会の実現に大きく貢献した。(立正佼成会一食平和基金よりご協力を頂きました)

貴会に助成頂いた2005年度は、名称を「コミュニティ・カレッジ」と変更し、無給スタッフが多い中部地域のNGOの特性を考慮し、「有給スタッフ希望コース」に加え、新たに「無給スタッフ・ボランティア希望コース」を設置した。

「有給スタッフ希望コース」は定員の倍近くの応募があった。カレッジを卒業した8名の研修生のうち7名が現役NGOスタッフとして活躍している。また、「無給スタッフ・ボランティアコース」は、より幅広い中部地域のNGOの協力を得て行った選択制講座やスタッフ1日体験をプログラムに取り入れた結果、受け入れNGO側の活性化につながり、このプログラムの継続を望む声がさらに強くなった。半数以上の卒業生が無給スタッフとして活躍している。研修生の年代は20代から60代と幅広く、学生、会社員、主婦・夫、通訳、退職者など属性も様々であった。

また、これらの成果を受けて、全国のNGO、特にネットワークNGOの先駆的事业モデルとなっており、福岡で今年度、当会のアドバイスを受け、同様の研修が開始した。

現在は、引き続き事業を継続すると共に、その財源確保に向けて基金の設立に奔走している。

*申請書に記載したことに沿って、ご報告させていただきます。

(1) 短期的な成果はどうか？

目標設定(申請書に記載しました)	成果と現状
<p>平和社会の実現に向けて、次の成果を想定しています。</p> <p>①【平和に貢献する人材の発掘・育成】 潜在する次世代のNGOを担う人材を発掘し、平和な社会を実現するために必要な知識・技術・意識を身につける場を提供することができます。</p>	<p>潜在する次世代のNGOを担う人材は多く、説明会には約80名近くの人材が集まり、応募者も定員の倍ほど集まりました。全国的にも希少な人材育成機関ということもあり、NGOからの、社会からのニーズの高まりを感じています。</p>
<p>②【地域NGOにおける次世代の人材不足の解消】 平和社会の実現のために活動するNGOが抱える共通の課題である、人材不足の解消につながります。</p>	<p>「有給スタッフ希望コース」を卒業した8名のうち、7名が現在NGOスタッフとして活躍しており、「無給スタッフ・ボランティア希望コース」では、半数以上がNGOスタッフとして活躍しております。常に人材不足に悩まされている中部地域のNGOにおいて欠かせない存在となっています。</p>
<p>③【地域・市民社会のエンパワーメント】 地域ぐるみで人材育成を行い、またその人材が地域を中心に活動することにより、地域NGO、市民社会のエンパワーメントにつながります。</p>	<p>本事業の卒業生が活躍し、中部地域のNGOでは、カレッジ研修生が「Nたま」(「N」GOの「タマ」ゴの略)が愛称として親しまれるまでになりました。カレッジへの協力NGOも増え、地域全体で次世代のNGOを育てるという機運が高まり、地域社会のエンパワーメントに貢献しています。</p>
<p>④【ネットワークの形成】 事業を通じて、NGOや研修生、協力者との新たなネットワークを築き、そのつながりを活かすことによって、より一層、平和社会の実現に向け貢献できます。</p>	<p>卒業生がサポーターとして、今期の研修生を支えたり、卒業生の活躍するNGOや協力先NGO同士で協働事業を行ったり、研修を通じて築かれたネットワークが、卒業後もより一層活かされています。</p>

(2) 長期的な展望展開はどうなりますか？	
目標設定(申請書に記載しました)	成果と現状
<p>助成期間に、事業の試行・基盤作りを行い、助成期間終了後はその成果を活かし、「研修機関」として事業を継続する予定です。平和社会の実現に向けて、次世代のNGOを育てる拠点を定着させ、人材発掘とその育成、平和社会実現のためのネットワーク作りに努めます。この事業は、当団体の中心的役割として担う所存です。この形を10年間継続し、その後、より一層効果のある形に進展させる予定です。</p> <p>また、財政的には自主事業として成り立つよう、参加費収入の他、「平和社会の実現のための次世代NGO人材育成基金(仮称)」を助成終了後に立ち上げ、平和を願う人々がその人材育成への資金提供という形で平和社会の実現に貢献できる仕組みづくりを考えております。</p>	<p>中部地域のみならず、本研修の存在やその成果が知られるようになり、内外より継続の価値がある事業として認められています。他セクターからも</p> <p>「平和社会の実現のための次世代NGO人材育成基金(仮称)」については、これまで幾度か協議しており、早々にその立ち上げと資金集めに取掛かる予定にしております。</p>
(3) 期待できる社会的な波及効果はどうですか？ (数値化できるものは、明記して下さい。例えば受益者数など)	
目標設定(申請書に記載しました)	成果と現状
<p>①【継続的な人材育成による効果】</p> <p>平和社会を願う人材を発掘し、その実現のために力を養う場を継続的に提供しつづけることによって、人材を安定させることができます。また、平和について学んだ人材がNGOで活躍することによって、平和な社会の実現に着実に近づくことができます。</p>	<p>既に今年4回目となった本事業は、過去の卒業生の活躍が大変目覚しく、特に中部地域のNGOにおける人材の安定に貢献しています。中部地域のNGOの多くは、世代交代に悩んでおり、その人材確保に大きく貢献しております。</p>
<p>②【社会全体が受益者】</p> <p>長期的な受益者は、「平和を願う人々」、「社会全体」です。短期的な受益者である研修生(20名/年×10年間=200名)に始まり、これにかかわるNGO・協力者(100名/年×10年=延べ1,000名)、地域社会、全国、世界全体へと広がりを持ちます。</p>	<p>3期終えた現時点において、既に卒業生が、平和の実現、南北格差の解決などに向けて活躍しています。今後も、本研修をニーズに合わせながら、より進化させて継続していくことにより、受益者が拡大することが予想されます。</p>
<p>③【実態あるネットワークがもたらす効果】</p> <p>地域ぐるみで事業を行うことによって、中部地域を中心とした平和社会の実現に向けての実態あるネットワークづくりにつながり、それが平和社会の形成に大きく役立ちます。</p>	<p>既に卒業生や研修協力NGOなどに実態あるネットワークが築かれており、これらは「Nたまネットワーク」とさえ呼ばれています。世代交代に行き詰っていた多くの中部地域のNGOにとって、研修生がその活性化に大きく寄与しています。</p>
<p>④【平和社会実現のための新たな手法の提案】</p> <p>平和な社会を実現するため、地域ぐるみで「次世代のNGOを育成する場」を創設するという試みは、全国初であり、平和社会を実現するための新たな手法として提案します。</p>	<p>今年度、NGO福岡ネットワークが、本事業をモデルに同様の研修を開始しました。(貴会の助成を受けています)実施にあたっては、企画以前から、運営から会計までアドバイスをを行いました。他の地域・分野においても、相談を受けているNGOがあります。他地域の市民活動の活性化にも貢献しております。</p>

●今後の課題：

- ・ 卒業生のさらなるネットワークづくりやサポート事業として、NGO スタッフの相互勉強会を考案中である。
- ・ 事業を継続するため「平和社会の実現のための次世代NGO人材育成基金(仮称)」を立ち上げ、より多くの人びとからの協力を得る必要がある。
- ・ 昨年と今年でも、少しずつニーズや状況が変わってきている。時代と実態を見極めながら、本事業をより進化させていく必要がある。

以上